

発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略

《成果①》
新規性・新たな知見

－ 台頭する中国と日米欧の新たな協調－



中国研究会では、中国共産党成立百周年や、秋の六中全会における「歴史決議」の採択などの重要政治イベントに着目して、習近平の権力集中が一層進んでいることを確認した。2022年に開かれる予定の第20回共産党全国代表大会に向けて、習近平の最高指導者への留任の可能性が高いとみられる中、その結果生じうる後継者問題や、政治の予測可能性の低下、政治制度化の後退などの問題を指摘した。

米国研究会では、内政においては、民主党と共和党の分断や民主党内の中道派と左派との分断の深まり、経済の不調に対する国民の不満がバイデン大統領の政策遂行を困難にしていること、外交においては、同盟・友好国との連携を外交の柱とする一方アフガニスタン撤退にみられる非介入主義的な動きを見極める必要が指摘された。新たな試みとして、インド太平洋構想や日米同盟に対する米国と日本の有権者の認識についての調査・分析を米国のシンクタンクと共同で実施した。

欧州研究会では、欧州における対中脅威認識の高まりとインド太平洋シフト、中東欧地域の中国離れとロシアへの警戒感などについて検討を重ね、ロシアのウクライナ侵略を受けて、欧州各国とEUが中国およびロシアに対して強い姿勢を見せ、欧州内及び米国との一体性が高まっていることが明らかとなった。一方、新型コロナ後のEU域内経済格差、NATOの課題も指摘された。

成果を集約し、 展望と日本外交への提言を含む『戦略年次報告』を発表

2021年度発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 — 台頭する中国と日米欧の新たな協調 —」



《成果②》
シンクタンク・有識者
との連携（発信を含む）



ウェビナー「インド太平洋における欧州軍事プレゼンスの政治的意味」
(2021年11月8日)

ウェビナー「インド太平洋における欧州軍事プレゼンスの政治的意味」(2021年11月)
英仏独の専門家が日本側の専門家と共に
欧州軍艦の相次ぐ派遣の意味を議論



写真：日本経済新聞HP

V4+1 シンクタンク協議
(2021年7月16日)、第8回
富士山会合(2021年10月23
日)等の国際イベントに参加
し、日本の外交政策を積極的
に発信



TGD3：(2022年3月2-3日)

第3回東京グローバル・ダイア
ログ(TGD3)の開催：
「価値、技術、海洋を巡るせめぎ
合い：激化する米中競争と国際社
会の対応」をテーマに実施



(2022年3月30日)

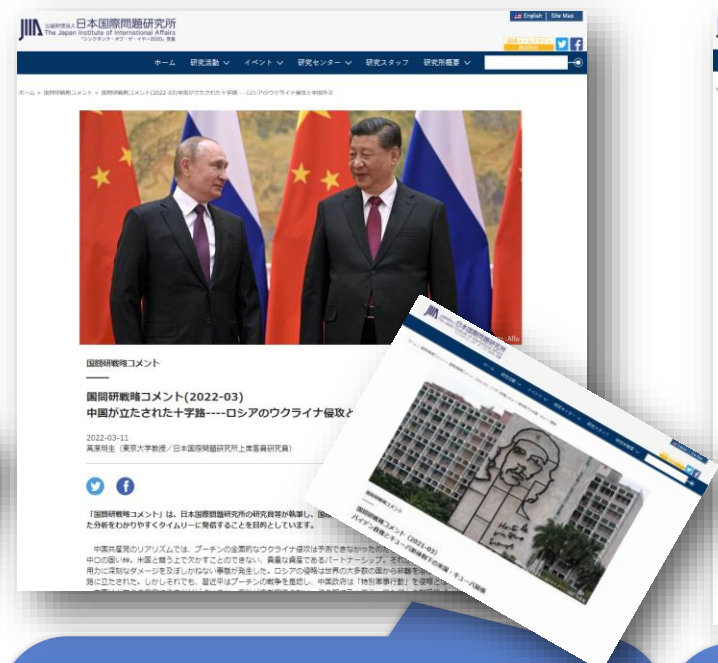
シカゴグローバル評議会
と共同で、米国のリー
ダーシップや日米同盟に
関する日米の有権者を対
象とした世論調査のレ
ポートを発表(英語)

米・中・欧の主要シンクタンクとの意見交換を通じたネットワークの継続・強化

海外主要シンクタンク・有識者との活発な意見交換・ウェビナー開催により
グローバルな知的ネットワークの構築と対外発信

《成果③》
内外への積極的な発信

発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 — 台頭する中国と日米欧の新たな協調 —」



『国際問題』
バイデン政権の課題、
中国の「ワクチン外
交」などをタイム
リーに発信

「研究レポート」
中国の調停外交、米国の政党
政治、フランスのインド太
平洋戦略、ウクライナ危機によ
るドイツの安全保障政策の転
換など計28本を発表

「国問研戦略コメント」
ロシアによるウクライナ侵略
と中国外交、バイデン政権の
米国と新体制下のキューバの
関係などにつきタイムリーに
発信（一部は英訳済み）

AJISS-Commentary
英語による発信
『Simultaneous application for
CPTPP membership by China and
Taiwan: A valuable platform for
dialogue with China?』（2022年2月）

専門性の高い最新情勢の分析・政策提言を日英両言語で分かりやすく発信